



### ジョムティエン行動枠組 基本的な学びのニーズを満たす

UDHR 1948 “誰もが教育を受ける権利がある”  
1億人以上の子どもが初等教育へのアクセスがない

以下に提案する側面について各国は、1990年代に向けた自国のターゲットを設定することができる

1. 早期幼児教育及び発達に係る活動の拡大、--- 特に貧困、恵まれない、障がいのある子どもたち;
2. 2000年までに初等教育(もしくは--- “基礎”)の普遍的なアクセスと修了;
3. 学習の成果の改善 ---;
4. 成人の非識字率縮小--- 例えば、2000年まで1990年の半分にする、女性の識字率を重視---
5. 基礎教育と若者や成人に必要な必須スキルの訓練の提供の拡大、---健康、雇用と生産性への効果や行動変化の観点からその有効性が評価されるプログラムを通じて;
6. より良い生活や持続的な開発のための知識、スキル、価値観の---獲得の促進、---その有効性は行動変化の観点から評価される。

### ダカール行動枠組

ジョムティエン宣言が再確認され、6つのゴールを採択:

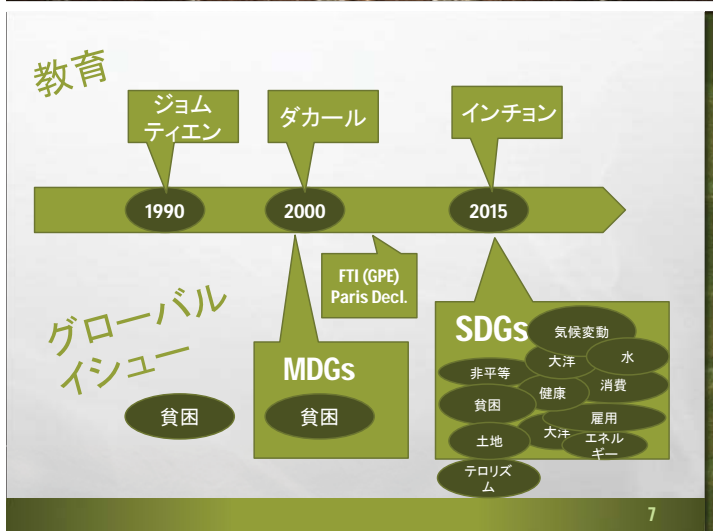
- Goal 1 特に、弱者、不利な位置にある子ども達に対する、包括的な幼児教育の拡大改善。
- Goal 2 2015年までにすべての子ども達、特に、女子、困難な条件下にある子ども達及び少数民族の子ども達が、無償で良質の義務初等教育の機会を与えられ、それを修了することを保証する。
- Goal 3 若者と成人の学習ニーズが、適切な学習プログラム、ライフスキルプログラムの公正なアクセスを通じて、満たされることを保証する。
- Goal 4 2015年までに、特に女性の、成人、特に女性の識字のレベルを50%改善する。すべての成人のための基礎的・継続的教育への平等なアクセスを保証。
- Goal 5 初等及び中等教育におけるジェンダー格差をなくし、---2015年までに、教育におけるジェンダーの平等を達成すること、---
- Goal 6 あらゆる側面で教育の質を改善し、---すべての者によって、とりわけ読み書き、計算、生活の基本的技術に関して、確認できかつ測定可能な学習効果が成功裏に達成されること。

### 教育 2030 = SDG4 すべての人に包括的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

- Target 4.1: 2030年までに、すべての女児及び男児が、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了し、適切で効果的な学習成果をもたらす。
- Target 4.2: 2030年までに、すべての女児及び男児が、質の高い乳幼児の発達・ケア及び就学前教育にアクセスすることにより、初等教育を受ける準備が整う。
- Target 4.3: 2030年までに、すべての女性及び男性が、手の届く質の高い技術教育・職業教育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られる。
- Target 4.4: 2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。
- Target 4.5: 2030年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障がい者、先住民及び脆弱な立場にある子どもなど、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできる。---
- Target 4.6: 2030年までに、すべての若者及び大多数(男女ともに)の成人が、読み書き能力及び基本的計算能力を身に付けられる。
- Target 4.7: 2030年までに、ESD---を通じ、全ての学習者が持続可能な開発を促進するために必要な知識及びスキルを習得できる。

### 変化する(?) それとも、一貫した力点

ジョムティエン 基本的な学習ニーズを満たす	ダカール	インチョン SDG4 包括的かつ公平で質の高い教育
1. ECCD	1. ECCE	2. ECDC
2. 初等教育普遍的アクセス, 修了	2. 初等教育普及, 修了, 無料義務教育	1. 初等・中等教育の修了, 無料, 学習成果
3. 学習成果	5. ジェンダー同等と平等 6. 教育の質と学習成果	5. ジェンダー同等 (1.含む)
4. 成人の識字	4. 成人の識字	6. 成人の識字と基本的計算能力
5. 若者と成人基礎教育&スキル	3. 若い人々と成人の学びとライフスキル	4. 若者と成人, スキル, 労働, 働きがいのある人間らしい仕事 3. 職業訓練 & 大学
6. 知識, スキル & 持続的な開発への価値観		7. ESDを通じた持続的な開発に向けた知識とスキル



### 議論を深めるために(1)

- アクセスから質へ、焦点の変化(?)
  - 残された公平性と包摂性の課題 vs 学び
- 「権利としての教育」への一環した強調
  - SDGs 枠組みでも通用するか?
    - ~ ポスト基礎教育やスキルとの関連で
- 教育開発が追及される文脈の変化:
  - 貧困削減 → MDGs (8) → SDGs (17)
- より広い開発アジェンダの中での、教育のより小さな立ち位置(あるいはより重い役割)
  - これは良いことか、悪いことか?

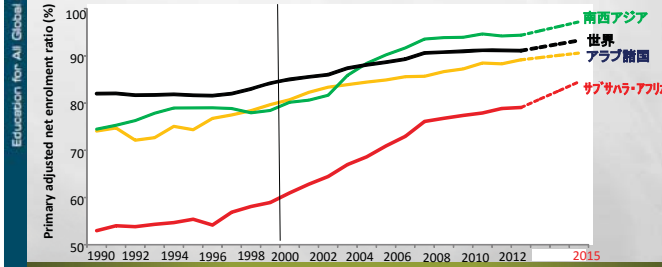
私たちは何を達成したか？  
それはどのように？

EFA 目標 2: 目標を達成したのはわずか半数の国々

Goal 2  
Primary  
education



EFA目標の最も強調されたもの  
しかし、進展は見られるものの  
初等教育の完全普及を達成し  
たのは、just over全体のわず  
か半数の国々

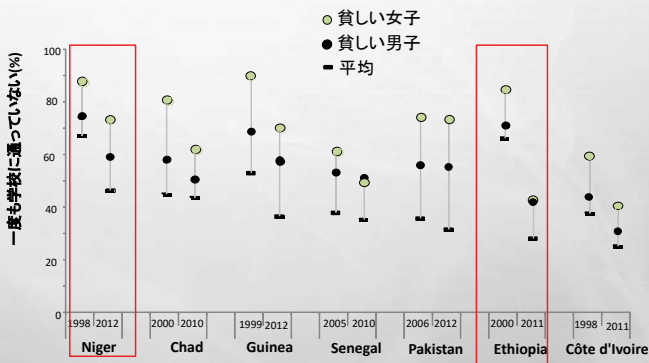


Source: UIS database; Bruneoth (2015).

Source: UNESCO

EFA 目標 5: 不利な立場は 続き、しかも折り重なる

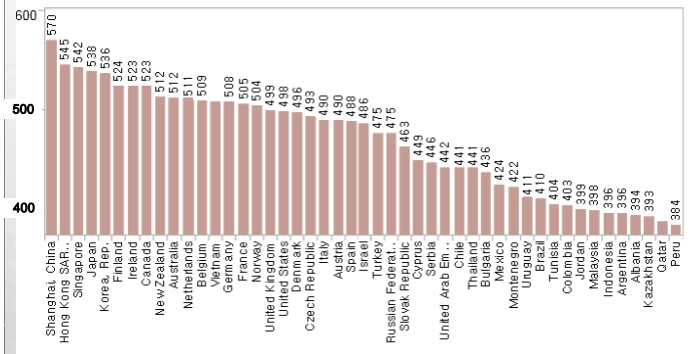
最も貧しい女子は、一度も学校に通えないリスクも最も高い



Source: UNESCO

学びの格差 - グローバル

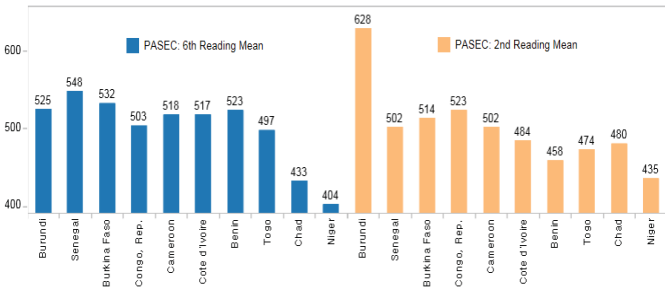
PISA (Reading) 2012



Source: OECD/ World Bank EdStats

学びの格差2 - 地域内

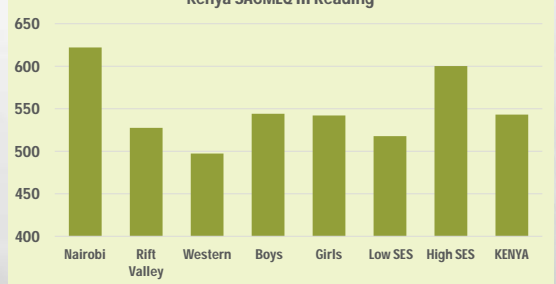
PASEC (Reading) 2014



Source: World Bank EdStats

学びの格差3 - 国内

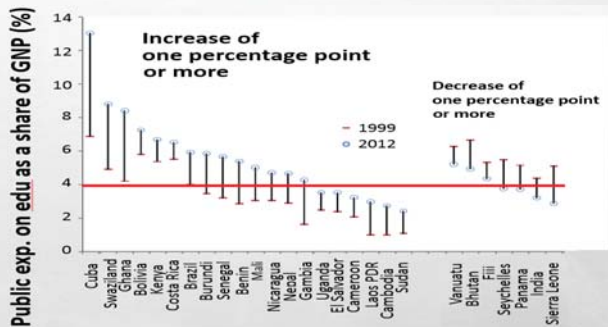
Kenya SACMEQ III Reading



Source: World Bank EdStats

国内教育財政: 多くの国々で予算を増加

多くの低所得国が教育支出を増大

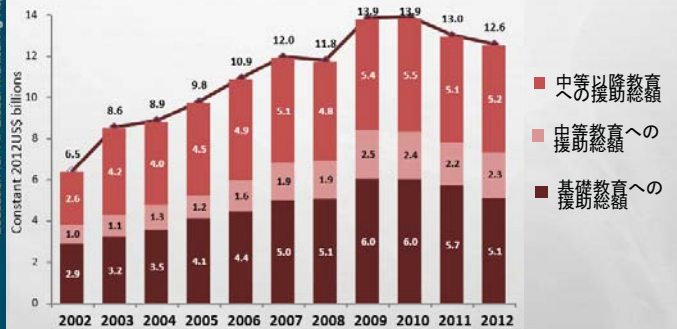


途上国の半数以上が推奨最低ラインのGNPの4%を教育に支出

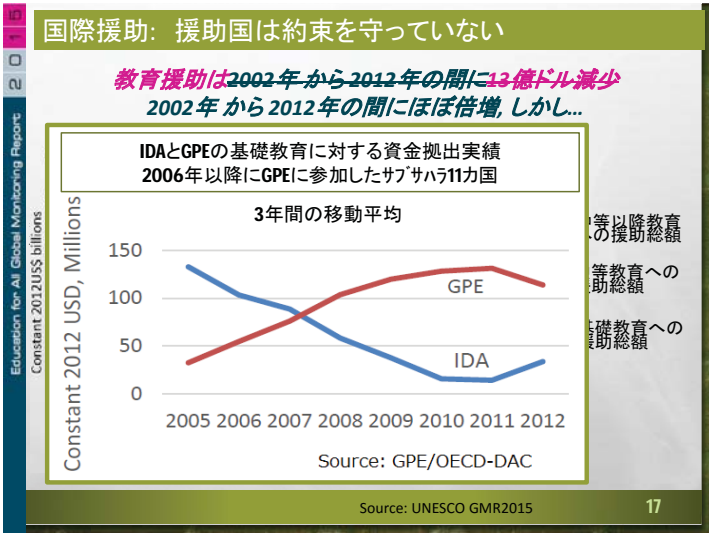
Source: UNESCO GMR 2015

国際援助: 援助国は約束を守っていない

教育援助は2002年から2012年の間に12億ドル減少  
2002年から2012年の間にほぼ倍増、しかし...



Source: UNESCO GMR2015



- ### 議論を深めるために(2)
- 私たちはどれだけ知っているか:
    - 不平等を克服する方法
    - 学びを改善する方法
  - EFA時代の改善は財政が鍵となった
    - より広い、野心的なターゲットのための新しい財政メカニズム、それは可能か？
  - アセスメント文化への傾斜: PISA (for D), SACMEQなど,
    - しかし、目標達成への方途は不透明
    - 特に、学び、価値観(例えば ESD)

- ### 国際教育協力の潮流
- プログラム・ベースド・アプローチ
    - 調和化とアラインメント
    - プロジェクトから、より財政支援へ
  - 結果を強調
    - 学び(の成果)をどう測るか
    - 成果に対する財政支援: 「成果」とは何か、その指標に何をを使うか
    - 学びの改善の方策として私たちは何を知っているか
  - パートナーシップの拡大
    - より広範なパートナーをどう引き込むか
- 日本の比較優位

ありがとうございました!  
さらに議論を深めましょう.